

インフォメーション

問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp

サポセンスタッフから



3階情報サロンをご活用ください！

サポセン3階には、仙台市内外の市民活動団体・NPOの情報をストックした「団体情報ファイル」や、団体のニュースレターのバックナンバー等を閲覧できる「情報サロン」があります。(宮崎)



サポセンで受け付けた、市民活動団体の過去のチラシをアーカイブしています。県内外、活動分野で分類し、団体毎にまとめています。連絡先や、これまでどのような活動をしてきたのか知ることができます。「宮城や仙台にどんな団体がいるか知りたい」。そんな人にオススメです。

他にも、サポセンのレターケース、ロッカー、事務ブースを利用している団体の「活動報告書」「全国の市民活動支援施設のニュースレター」「助成金のバックナンバー」などがあります。

※情報サロンの資料は、保管資料のため貸出は行っておりません。あらかじめご了承ください。

サポセンスタッフから



サポセンをより良くするために。利用者アンケートにご協力お願いします！

2月4日(日)から3月31日(日)まで、利用者アンケートを実施します。

このアンケートは、より良い施設運営を行っていくために実施しています。アンケート用紙はサポセン窓口で配布し、1階窓口または5階交流サロンの回収箱で回収します。ぜひご協力を願っています。(堀)

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい／団体を立ち上げたい／組織運営の悩みを解決したい／他の団体や他のセクターと連携したい／自分のスキルを地域や社会に役立てたい…

今月の休館日 3月13日(水)、27日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 每月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ／地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分

[HP]https://www.sapo-sen.jp [Blog]http://blog.canpan.info/fukkou [Twitter]@sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

市民ライターが、仙台の市民活動団体やワクワクビトを取材しています！

▶市民ライター

http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。

▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート]

サポセンホームページからアクセスいただくか、

携帯電話等で2次元バーコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター
発行日 2019年3月1日
編集 特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
デザイン PEACE Inc.
編集人 太田貴 菅野祥子 松村翔子 錦田みづほ 水原のぞみ
発行部数 3000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと

仙台市市民活動サポートセンター 通信 ぱれっと 2019 No.235

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター（サポセン）にいろいろな人が集まり、それぞれの色（個性）が發揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月の
ワクワク
ビト

ハネコ・はねこ
ごとう さなえ
後藤 早苗 さん (17)

すずめ踊りで 笑顔のまちを作りたい

「すずめ踊りのルーツとなったハネコ踊りを伝えたい」。後藤さんは市内各所で講演活動をする高校生です。内容は、400年前から石工たちが踊り継いできたすずめ踊りの歴史を振り返り、ルーツを辿るというもの。実演も好評です。現在多くの人が目にするすずめ踊りが両手に扇子を持って舞うのに対し、ハネコ踊りは右手に扇子1枚。振り付けは、腰から深く屈み、両手は八の字を描くように体の前で回すのが特徴です。

踊りを始めたのは5才の頃。「ハネコ踊りに恩返しがしたい」と講演活動を始めたのは高校2年生の時でした。きっかけは中学時代、生徒会長を務めていた頃のこと。達成感を覚える一方で、周囲の期待に応えようと奮闘し、他人が望む自分と本当の自分とのギャップに悩んだことがあります。「踊っているときは、自分らしくいられた」とハネコ踊りに救われた経験を語ります。

自分を支えてくれるハネコ踊りをもっと多くの人に伝えていくこうと今後の活動に意欲を燃やします。

取材・文 市民ライター 阿部哲也

特集

市民の手で未来に届ける、

東部地域みどりの再生

—「ふるさとの杜再生プロジェクト」—

ハネコ・はねこ

TEL 090-3369-1818(代表 加藤)

ハネコ・はねこは2012年4月に発足。石工の子孫でハネコ踊りの伝承者故黒田虎雄氏から伝授されたお囃子や踊りを伝播継承することを目的とし、ハネコ踊りを舞い演じている団体です。ハネコ踊りはすずめ踊りの原型とされ、代々石工達によって踊り伝えられ、毎年大崎八幡宮と瀬田谷不動尊の祭礼に奉納されてきました。大人12名、子ども13名の計25名で月2回八幡コミュニティセンターに集まり練習、年間10回程度演舞を披露しています。ハネコ踊りを広げていくため、一緒に演舞する参加者を募集中。



市民の手で未来に届ける、東部地域みどりの再生 —「ふるさとの杜再生プロジェクト」—

仙台市中心部から約10kmに位置する東部地域は、防風・防砂のための海岸林や、沿岸部全域に広がる海岸公園、屋敷林「居久根」などのみどりに守られ、人々の豊かな暮らしがありました。2011年、東日本大震災で発生した津波により、甚大な被害を受けた東部地域のみどり。震災から8年を迎える今、東部地域のみどりを市民ひとりひとりの「ふるさとの杜」と位置付け、再生に取り組む人たちがいます。様々な人々の協働により、未来にみどりをつないでいく、「ふるさとの杜再生プロジェクト」の取り組みを紹介します。



市民と一緒に考え取り組む

ふるさとの杜再生プロジェクトは、2013年から始まった仙台市の震災復興メモリアル事業です。東部地域のみどりの再生を目指し、30年かけて植え育て、震災の教訓・伝承、復興の記録を様々な立場の人々が協働により次代につないでいます。

震災後、避難所や仮設住宅、海岸公園でみどりの復興に取り組んでいた団体を中心に、町内会、NPO、企業、行政等が互いの情報共有や協働を図るため、2015年「仙台ふるさとの杜再生プロジェクト連絡会議(以下、連絡会議)」を発足しました。主な活動は「植える」「育てる」「支える」「伝える」「活用する」の5本柱です。特に震災後10年間は「植える」活動に重点を置き、連絡会議で企画・検討を行ながら植樹会を実施。これまでに海岸公園などで8回開催し、のべ2340人が苗木を植えました。

連絡会議会長の佐藤修さんや花と緑の力で3.11プロジェクトみやぎ委員会の鎌田秀

夫さんなど、みどりの専門家が植樹指導を担い、連絡会議に属するそれが運営スタッフとしてサポート。株式会社藤崎も「地元企業として地域とみどりの再生に取り組みたい」と2017年から参加し、2019年には荒浜の海岸防災林で植樹会を開催予定です。

特定非営利活動法人都市デザインワークスは津波によって失われたふるさとの景観「居久根」を、今の暮らしに沿った形で再生させようと、現地再建に取り組む岡田地区の新浜町内会・南蒲生町内会とともにイグネスクールを開催するなど、地元の人と協力して活動しています。

それぞれの強みを活かした協働

参加者が植えた苗木が成長する中、「育てる」取り組みにも力を入れています。育樹会では除草や枯れた苗木の補植を行うだけでなく、公益財団法人仙台市公園緑地協会



●仙台ふるさとの杜再生プロジェクト連絡会議 事務局 仙台市建設局百年の杜推進課
TEL 022-214-8389 Mail ken010241@city.sendai.jp

(以下、緑地協会)の遠藤和子さんが企画した、沿岸部で採れたハマナスの実のジャム作りや貝殻を使ったクラフトでも参加者を楽しませています。緑地協会の鈴木郁雄さんは「育樹まで参加する人は少ない。自然の恵みを活かした体験企画から興味を持ってもらえば」と、多様な人たちを巻き込む機会を創出しています。また、「みどりとともに育って欲しい」と市内の子どもたちの復興支援も進めています。緑地協会は、2012年から太白区の向山小学校とともに「どんぐりの森づくりプロジェクト」に取り組んでいます。子どもたちが向山中央公園でどんぐりを拾い、苗木を2年間育て、植樹会の際に自らの手で沿岸部に植樹しています。

認定特定非営利活動法人冒険あそび場・せんだい・みやぎネットワーク(以下、冒険あそび場)は若林区の七郷小学校の授業の一環で、2019年に震災からの復旧工事を終えた「海岸公園冒険広場」に植樹を実施。海岸線に並行して流れる貞山運河沿いの実生苗を子どもたちと採取し、校内で2年間育てた後に冒険広場に植え戻しました。「広場を訪れるたびに、植えた苗木に愛着を持ち、見守り続けて欲しいと願いを込めました」と、冒険あそび場の高橋悦子さんは話します。

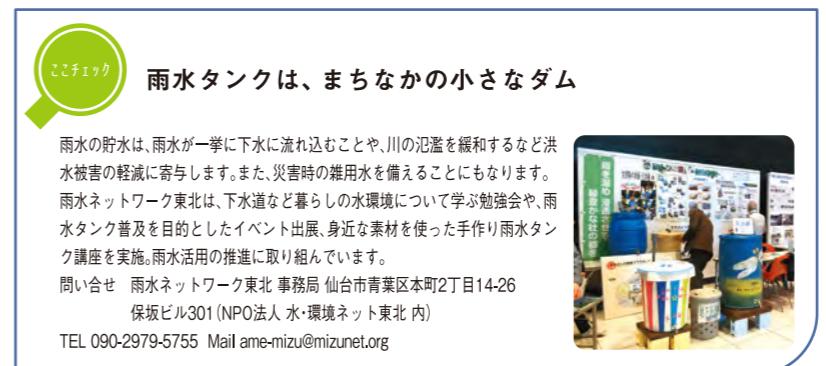
また、守屋木材株式会社などの企業から、苗木や資材の提供や個人・団体からの寄付が、再生プロジェクトを「支える」大きな力になっています。

未来に受け継ぐ「ふるさとの杜」

震災の伝承や沿岸地域の文化、暮らしを「伝える」活動も行っています。新浜町内会の遠藤源一郎さんは、貞山運河の歴史を学ぶ学習会や自然観察会を行うなど企画に工夫を凝らします。また、埼玉県立鶴ヶ島清風高校の生徒が、2015年から毎年南蒲生町内会を訪問。岡田地区での育樹活動、震災遺構の見学や地元の人たちとの交流を通じて、県外の次世代にも活動の輪が広がっています。

「木が育ち、昆虫が増え、生態系が回復はじめた。海岸のみどりを再生させるだけでなく、震災の記憶を伝承し、仙台の復興のシンボルとなる杜づくりや人づくりを目指したい」と会長の佐藤さん。震災の悲しい記憶だけでなく、仙台の復興への希望を、私たちのふるさとの暮らしとともに未来に繋ぎます。

(取材・文 水原のぞみ)



雨水タンクは、まちなかの小さなダム

雨水の貯水は、雨水が一挙に下水に流れ込むことや、川の氾濫を緩和するなど洪水被害の軽減に寄与します。また、災害時の雑用水を備えることになります。雨水ネットワーク東北は、下水道など暮らしの水環境について学ぶ勉強会や、雨水タンク普及を目的としたイベント出展、身近な素材を使った手作り雨水タンク講座を実施。雨水活用の推進に取り組んでいます。

問い合わせ 雨水ネットワーク東北 事務局 仙台市青葉区本町2丁目14-26
保坂ビル301 (NPO法人 水・環境ネット東北 内)
TEL 090-2979-5755 Mail ame-mizu@mizunet.org

「リトル台湾in仙台」は、勾当台公園市民広場を会場に2日間にわたり、台湾の伝統芸能や食文化を楽しめるイベントです。2017年に始まり、翌年には第2回目を開催。のべ10万人が来場しました。主催のリトル台湾in仙台実行委員会は、日本人の中村萬紀さんと、台湾出身で仙台在住30年の張菁璉さんを中心に活動しています。行政や企業への協賛依頼、飲食店や芸能団体への出店・出演交渉など、仙台と台湾を行き来し丁寧に取り組みます。1月に準備を始め9月に実施。12月の決算報告まで1年がかりです。「仙台の人に台湾を知ってもらいたい」。2人の熱い願いです。



▲まるで台湾の夜市が仙台に現れたかのような演出が自慢です

皆さんは東日本大震災時に、台湾から多額の支援があったことを覚えていますか? 中村さんには、三陸沿岸地域で被災した親戚が多くいました。「身近な方々に何かしたい気持ちはありますけれども、行動に移せなかった」と悔やんでいました。台湾からの支援を知り、恩返しの気持ちから台湾を訪れるようになったそうです。日本が大好きで、仲良くしたいとい台湾の人々に会ううち、交流イベント開催への思いも膨らんでいました。「長年の思いを叶えるチャンス!」と賛同したのは、中村さんの知人、張さん。高等学校で中国語を教えながら、故郷を紹介する活動をしてきました。台湾と仙台の人々の思いが交わるイベントで、今後ますます互いの交流の輪が広がり、縁が深まることがでしょう。

■連絡先
リトル台湾in仙台実行委員会
URL <http://taiwansendai.jp>
Facebook <https://www.facebook.com/taiwan.sendai>